

「冬草」
 学校の庭
 冬ふかくそよぐ 草の穂や。
 なにを はまかりて居たる
 我ども
 『春のことぶれ』
 釈 道空

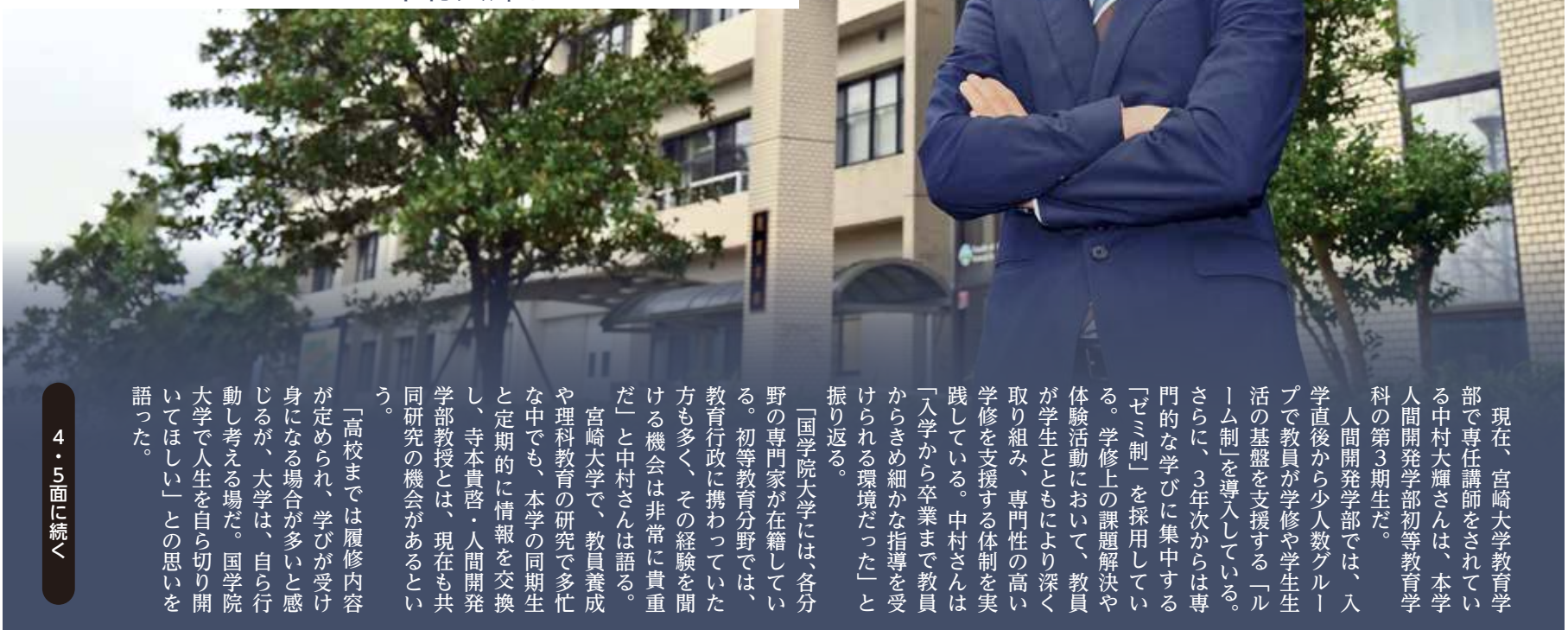
国学院大学 令和8年1月20日(火) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
 [発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10-28 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭儀 ■ 月次祭 2月1日(日) 午前11時 神殿 ■ 建国記念祭 2月11日(水・祝) 午前11時 神殿
 ■ 天長祭 2月23日(月・祝) 午前11時 神殿

院友
 Interview

自ら学び、行動することで築く 教育者としての歩み

宮崎大学 教育学部 専任講師 中村大輝さん(平27卒・123期初教)



現在、宮崎大学教育学部で専任講師をされている中村大輝さんは、本学人間開発学部初等教育学科の第3期生だ。

人間開発学部では、入学直後から少人数グループで教員が学修や学生生活の基盤を支援する「ルーム制」を導入している。さらに、3年次からは専門的な学びに集中する「ゼミ制」を採用している。学修上の課題解決や体験活動において、教員が学生とともに深く取り組み、専門性の高い学修を支援する体制を実践している。中村さんは「入学から卒業まで教員からきめ細かな指導を受けられる環境だった」と振り返る。

「国学院大学には、各分野の専門家が在籍している。初等教育分野では、教育行政に携わっていた方も多く、その経験を聞ける機会は非常に貴重だ」と中村さんは語る。

宮崎大学で、教員養成や理科教育の研究で多忙な中でも、本学の同期生と定期的に情報を交換し、寺本貴啓・人間開発学部教授とは、現在も共同研究の機会があるという。

「高校までは履修内容が定められ、学びが受け身になる場合が多いと感じるが、大学は、自ら行動し考える場だ。国学院大学で人生を自ら切り開いてほしい」との思いを語った。

4・5面に続く

歳旦祭を斎行



歳旦祭(斎主 星野光樹・神道文化学部准教授、神殿奉斎員)が1月1日、国学院大学渋谷キャンパス神殿で執り行われた。祭典には、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ、法人・各設置学校の役教職員、来賓らが参列。斎主が祝詞を奏上し、今年一年の平安と法人の隆昌を祈念した。

祭典終了後、あいさつに立った佐柳理事長は「大学を取り巻く状況は一段と厳しいものになっている。教職員一同の『連帯と協調』そして、『オール国学院』の精神のもと、学校法人国学院大学の発展のために心を一つにして前進していきたい」と語った。写真。

箱根駅伝総合2位 選手コメント

K:DNA
 I・II面

みはるかすもの

恥ずかしながら、大掃除が法律で努力義務とされていることを昨年末に知った。それならばと、思い立って本棚の奥をのぞく。読んだ記憶のない本が並ぶ隙間に、薄黄色の冊子が見える。表紙には「2009」の文字。ページをめくれば、やる気に満ちた言葉が並ぶが、わずか一週間で途絶える。自らを省み、そっと冊子を閉じた▼世田谷には日記本のみを扱う本屋がある。公刊された日記本のほか、一般の方々が日常生活をまとめた小冊子などが所狭しと並ぶ。試みに一冊手に取ると、30代女性の普通の日記。朝食のこと、職場での会話、渋谷で観た映画のことが書き連ねられていた。不思議とのぞき見るような後ろめたさはな

い。昔からの知り合いと何気ない会話をするような感覚で読むことができる。一冊、また一冊とめくると、棚の下に、我が国最古の日記文学とされる『土佐日記』を見つけた▼千年ほど前、紀貫之がかな文字で綴った『土佐日記』。旅の情景や人々の交流が丁寧に記され、名高い歌人としての美しい表現はもろろん、些細な出来事や心の機微までも描かれる。その生活や感情に引き込まれたのは30代女性の日記と同じ。読み終えたときには作者とともに旅したようだった▼日記本屋で「気まぐれ日記帳」を見つけた。薄黄色の表紙には「2026」ではなく、猫の絵が描かれている。三日坊主であることを認めて背伸びをせず、今年に心に止めたい記憶を静かに書き留めてみようと思う。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

主な内容 2面/年頭所感 3面/成人加冠式を斎行
 4・5面/院友インタビュー 6面/国学院大学松尾三郎杯争奪全国選抜高等学校柔道大会を開催

最終面から K:DNA I面/陸上競技部 箱根駅伝過去最高総合2位 II面/甘えず妥協せず、全力を尽くしてつかんだ公認会計士試験合格

年頭所感



未来を拓く一年とするために

理事長 佐柳 正三



令和8年丙午の新春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

本年元日には厳寒の中、新たに竣工した大学神殿において初めての歳旦祭が厳かに執り行われました。私は本法人のさらなる発展と、学生・生徒・園児の皆さん、保護者の皆様、教職員、そして院友各位のご健勝を祈念し、玉串を奉りました。

振り返れば昨年は、昭和100年、戦後80年という節目の年でした。大阪・関西万博の開催、女性初の首相誕生、ノーベル化学賞および生理学・医学賞の受賞、スポーツにおける日本人選手の活躍など、明るい話題に満ちた一年でありました。一方で、令和の米騒動、熊による被害や山林火災、地震、中国・ロシア

等との複雑な外交問題など、国内外で不安を呼ぶ出来事も相次ぎ、社会の変動をあらためて強く意識させられた年でもありません。

私立学校を取り巻く環境においては、改正私立学校法が昨年4月に施行されました。本法人でも、理事・評議員・監事の構成に関する要件をはじめとした新たな寄附行為に基づき、法人経営の体制整備を進めてまいりました。各教育機関の構成員の皆様のご理解とご協力により、円滑な運営が実現できていることに深く感謝申し上げます。

さて本年は、少子化という大きな課題に正面から向き合い、時代の変化を見据えた的確な対策を迅速に講じることが、法人経営の最重要テーマとなります。



学生、教職員の多様な学びを支援

学長 針本 正行

あらたまの年を言祝い申し上げます。

本学は、令和7年10月31日付で文部科学大臣の認定を受け、登録日本語教員養成機関として登録されました。これに伴い、令和8年4月1日より養成課程を開設いたします。本課程は、令和6年度に創設された国家資格「登録日本語教員」の取得に必要な基礎的知識と理論を体系的に学ぶものです。社会の多様化が進む中、日本語教育の充実が大学が果たすべき重要な社会的使命の一つです。これまで培ってきた学問的基盤を生かし、専門性と実践力を備えた日本語教員の育成に一層努めてまいります。

また、大学と大学院をより有機的に結びつける教育の在り方を検討する中で、学士・修士5年一貫教育の導入の是非について議論を始めました。本制度は、学部と大学院レベルの学修を取り入れ、学びを連続的に深化させる新たな教育の枠組みです。現在、国においても制度整備が進められ、大学設置基準等は令和8年4月1日に改正される見通しです。こうした動向を踏まえ、本学の理念と特性を基とした制度を検討していきます。

毎年、海外の大学とのネットワークを拡充して、学生教育及び研究交流の質の向上と機会の創出を図っています。本年度は、11月に、英国、ケンブリッジ大

学アジア・中東研究学部と協定を締結しました。世界の日本研究を牽引する機関のひとつである同大学との協定締結は、本学が標榜する「世界の日本研究を領導する」という理念の実現に資するものであります。本年9月には、初の交換留学生を本学大学院に迎える予定です。学生交換を端緒として、同大学との多様な研究交流もすすめていきます。

今後、日々変化する社会情勢を注視して、学生、教職員の多様な学びを支援し、輝く大学の未来を創造してまいります。本年が、皆さまにとって、良き年となりますことを心から祈念申し上げます。



年頭コラム 今年の干支にちなんで

馬と人の民俗

文学部教授 大石泰夫

「馬娘婚姻譚」と呼ばれる昔話の類型がある。柳田國男『遠野物語』にも収録される農耕馬とそれを飼育する娘が結ばれてしまうという話で、オシラサマ信仰とともに語られてきた話である。

その基盤にあるのは、農耕にとって「馬力」が必要不可欠の存在であったことと、厳寒の地方では馬にも暖を取らせるために馬小屋と人の住宅を連結させた住宅建築（南部曲屋が著名）を誕生させたことであり、これが馬と人を強く結びつけることになったといえよう。

岩手県の盛岡市と滝沢市には、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された「チャグチャグ馬コ」という行事が伝わる。滝沢市鬼越に鎮座する鬼越駒形神社と盛岡市の盛岡八幡宮の間を着飾った馬がパレードする行事である。馬

の首につるした鳴輪と装束に付けた鈴とが歩くたびに音を出し、それが「チャグチャグ」と聞こえることになって「チャグチャグ馬コ」と呼ばれるようになったという。今日では、盛岡市長が会長を務める「チャグチャグ馬コ保存会」が実施主催となり、馬運車で神社に馬が運ばれ、交通規制の下、馬のパレード行事となっているが、本来はそうしたものではありません。

岩手県内各地では駒形神、馬樞神、馬頭観音などの馬のカミが信仰を集めているが、その代表的なのが「蒼前信仰」で、東北のみならず関東・中部地方でも信仰される馬の守護神の蒼前神を祀るものである。当該の滝沢市の鬼越駒形神社は、「鬼越のオソデ（蒼前）さま」と呼ばれている。そして、「チャグチャグ馬コ」の元となったのは「オソデまいり」という

信仰行事であった。これは、農家が鬼越駒形神社の祭りの日に、飼い馬の健康を祈願して、これを着飾らせて詣でるといふものであった。それぞれの馬を飼っている家で、馬と馬に乗せる家族に「晴れ着」を着せたりして、三々五々参詣するものであった。祭りが皇族の来県と重なったことで、馬をパレードさせて御覧にしていることが試みられ、それが恒例化して今のようなことになったのである。農耕の機械化とともに農家が馬を必要としなくなってきたので、信仰行事とはいえなくなり、今日では「オソデまいり」という馬への愛情と信仰的な意味は意識されず、馬のパレードが強調されるようになった。しかし、「怪我の功名」ではないが、今日では個人が公道を馬に乗って通行することは簡単にはできないので、パレードになったから残せたということもいえる。



鬼越駒形神社に参詣するチャグチャグ馬コに参加する馬 (写真提供：大石泰夫教授)



南部曲家 (写真提供：盛岡手づくり村)

成人加冠式を斎行



神道文化学部が主催する「成人加冠式」が昨年12月21日、渋谷キャンパスの祭式教室で執り行われた。本学ならではの伝統行事である本式には、全学部の2年生に加え、新型コロナウィルス感染症の影響で開催が見送られていた期間に成年となった3・4年生を含む、希望者計67人が、家族や教職員が見守るなか、午前の部と午後の部の2回に分かれて参列した。

杉子女王殿下 大國魂神社へ奉納新潟コメ作りワークショップ



杉子女王殿下（本学特別招聘教授）が総裁を務められる一般社団法人心游舎主催の「新潟コメ作りワークショップ」で収穫された新米を奉納する「心游米奉納奉告祭」が昨年12月7日に大國魂神社（東京都府中市）で行われた。写真。

同ワークショップは新潟市北区の農園で、田植え、草取り、稲刈りを行い日本文化や歴史に触れるもので、ボランティア活動の一環として本学学生、卒業生も参加している。

奉告祭後の食事会では、杉子女王殿下が収穫した新米をお召し上がりになられた。なお、本学からは学生や学修支援センター副センター長の内村慶士・教育開発推進機構助教らが参加した。

成人加冠式は古代から続く成人儀礼である「加冠」に範をとった行事で、平成20（2008）年から執行している。コロナ禍による中断期間を経て、今年度で15回目を迎えた。式典では、黒崎浩行・神道文化学部長（教授）をはじめ、同学部の松本久史・副学部長（教授）、遠藤潤教授、柏木亨介准教授、大道晴香准教授が「加冠役」を務めた。男子は衣冠や狩衣、女子は正服や常服に身を包み、学生一人一人へ加冠役の教員によって、男子には冠や烏帽子、女子には釵子や額当が着けられた。冠物を頂いた学生たちは、その重みをかみしめるように背筋を伸ばし、大人としての第一歩を刻む自覚を新たにしていた。加冠を終え、黒崎学部長は祝辞を述べ、「本当の生きがいを見つけ、それに向かってまい進することで、社会からも大人として認められる。大学はそのための学びと成長の場。この節目に気付きを得て、これからの人生に生かしてほしい」と、新成人となった学生たちを温かく激励した。

閉会後には記念撮影が行われ、学生たちの晴れ姿を、参列した家族らが感慨深げにカメラに収める光景が多く見られた。

赤井益久名誉教授らが立命館白川静記念東洋文字文化賞優秀賞を受賞

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所が主催する第19回「立命館白川静記念東洋文字文化賞」の各部門受賞者が発表され、本学の赤井益久名誉教授と澤崎久和・文学部元教授（福井大学名誉教授）が優秀賞を受賞した。

同研究所は、白川静博士の研究成果を基礎に、東洋文字文化研究の振興と高度化を図る目的で平成17（2005）年5月に設立された。同賞は、この分野における有為な人材を奨励・支援し、功績のある個人および団体の業績を表彰するもの。

本賞は、『唐代小説集「河東記」訳注』（汲古書院、2024年）を著した赤井名誉教授、澤崎元教授、ならびに横浜国立大学の岡田充博名誉教授の3氏の同時受賞となった。

経済学部「基礎演習B」プレゼンテーション決勝大会 1年生が課題解決策を提案



経済学部1年次開講科目「基礎演習B」のプレゼンテーション決勝大会が昨年12月10日、渋谷キャンパスの百周年記念館記念講堂で開催された。「基礎演習B」は、企業や団体から提示された課題に対し、チームで解決策を立案する課題解決型学習（PBL）である。今年度は東急ホテルズ&リゾート株式会社から、10年後の渋谷の姿を描き、国内外の人々が何度も訪れたいと思える街にするために、東急ホテルズ&リゾートがすべきことと課題として提示された。後期授業開始から約3カ月間、全137チームがプランを企画し、予選を通過した6チームが決勝に臨んだ。

会場には同学部の1年生が参集し、会場運営は授業でグループワーク等の補助を行う同学部2年生のファシリテーター&アドバイザー（FA）学生が担当した。審査の結果、渋谷を起点とした周遊型観光の実現を目的として旅行パッケージの販売などを提案した日野雅彦・同学部教授（特別専任）が担当するクラスの「さやそた」チームが優勝を飾った。東急ホテルズ&リゾート社員による審査講評では、「東急グループの強みを生かした提案が現実的であった」と評価された。「学生賞」は、受講生のオンライン投票により、同社の既存施設を活用した日本文化体験プランを提案した手塚貞治・同学部教授担当クラスの「漢」チームが受賞した。結果発表後、各チームに賞状と記念品が手渡された。写真。

ユニバーサルデザイン講座 ボッチャ体験会を開催

教育開発推進機構学修支援センターが主催する、令和7年度ユニバーサルデザイン講座「ボッチャ体験会」が昨年12月10日、渋谷キャンパス5号館アリーナで実施された。

ボッチャは、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるスポーツとしてヨーロッパで考案されたもので、白い目標球（ジャックボール）に球を近づけるかを競う。

当日は一般社団法人渋谷ボッチャ協会から講師を招き、学生約30人が体験会に参加した。ボールは弾まず転がりにくい特徴があり、開始当初、悪戦苦闘する姿も見受けられたが、次第にコツをつかみ、独自の投げ方や戦略を工夫しながらプレーを楽しむ様子が見られた。

佐藤謙一・元経済学部教授 逝去

国学院大学元経済学部教授（特別専任）の佐藤謙一氏が1月4日に逝去。70歳。葬儀は既に執り行われた。

佐藤氏は昭和30年生まれ。昭和53年法政大学経営学部卒業。同年東京国税局入局。税務大学校研究部教授、鎌倉税務署長などを歴任。平成27年筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士前期課程修了。同年より国学院大学大学院兼任講師、28年本学経済学部教授（特別専任）。令和7年、定年により退職。

専門は所得税、租税手続、租税争訟など。主な編著書に『図解 国税通則法』（大蔵財務協会、2025年）などがある。

教職員人事

【採用】
◆大学事務局◇嘱託▷安部純子（財務部管財課）
（令和8年1月1日付）

博物館ミュージアムトーク 「性別越境」の歴史的意味を解説



国学院大学博物館でミュージアムトーク「性別越境の歴史と意味」が昨年12月13日に開催された。今回のミュージアムトークは、同館で開催中の企画展「性別越境の歴史学―男／女でもあり、女／男でもなく―」の監修を担当した性社会文化史研究者で本学出身の三橋順子氏による講演で、同館ホールには140人を超える聴講者が集まった。写真。

三橋氏は、本展示のテーマである「性別越境」が日本の歴史、信仰、文化に大きな影響を与え、その証拠となる資料が多く残されていることを指摘。考古資料や文字に残された神話・伝承、近世の絵画、祭りの写真などの展示資料を詳細に説明しながら、性別越境が持つ歴史的意味を解説した。異性装により双生となった存在が異能を発揮するという考えや、特に祝祭空間において異形が神聖な力を有するという考えが、社会や文化の中に深く根付いていると述べた。

参加者の中には熱心にメモを取りながら聴講し、講演終了後も閉館までの短い時間に再度展示を閲覧する姿が見受けられた。企画展「性別越境の歴史学―男／女でもあり、女／男でもなく―」は、2月23日（月・祝）まで開催している。また、三橋氏による展示紹介動画も、オンラインミュージアムで1月10日（土）より公開している。

院友 Interview

学問に向き合い経験を積み重ねて変化した風景の見え方

学びへの意欲を「涵養」する教員としての意識

宮崎大学 教育学部 専任講師 中村大輝さん(平27卒・123期初教)



なかむら・だいき
東京都世田谷区出身。国学院大学人間開発学部卒。宮崎大学教育学部専任講師。本学卒業後、東京都公立小学校教諭を経て広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。広島大学特任学術研究員などを務めた後現職。博士(教育学)。専門は科学教育、理科教育、教育心理学。特に科学的探究を通じた思考力の育成、現代的な教育測定法の開発などの研究に取り組んでいる。

国語で培った力が導いた理科教育への道

宮崎大学教育学部で、理科教育を担当しており、教員を目指す学生に理科の指導法を講義するとともに、理科教育に関する研究を続けている。例えば、子どもたちが理科の授業で仮説を立てる場面に着目し、どのように導けば、子どもたちが効果的に仮説を立てられるかを考え、魅力的な授業と指導方法を追究している。最近では、CBT(コンピュータ・ベースド・テストイング)のテスト開発や、AI技術の応用にも取り組んでいる。

国学院大学へ進学した理由

小学生の頃の担任の先生に憧れ、中学校の頃から教員を志した。高校の進路相談で「小学校の教員を目指すなら、文系が良いのでは」と助言され、国語を選ぼうと考えた。

国学院大学は、国語教育に力を入れていることに加え、当時は初等教育学科が開設されたばかりだったが、指導力のある先生方が多く在籍していることを知り、この環境で学びたいと考えた。

国語教育から理科教育へ、興味を持つきっかけとプロセス

在学中に、筑波大学附属小学校の公開研究会に参加した。この小学校は、研究発表会でも理科を含む公開授業を多数実施するなど教育研究の拠点校だ。私は国語の公開授業を見学する予定だったが、希望者が多く、見学は困難な状況だった。そのため、理科の授

業を見学すると、子どもたちの反応が、非常に印象的だった。目の前で興味深い自然現象が示されることもあってか、子どもたちの表情が豊かになり、きと映った。振り返ると、私自身も幼い頃から理科に親しみ、小学生の頃には、子ども向けの理科関連の読み物を購読し、わくわくする心を抱いていたように思う。この体験を通じて理科教員を志す思いが募った。

公開研究会の授業で得た気付き

研究会では、佐々木昭弘先生(現同校学校長)と森田和良先生(現文京学院大学特任教授)が授業を担当され、子どもたちが主体的に問題を解決していくという内容だった。森田先生は、子どもたちが教材を通してどのようか考えるか、また授業に適した教材は何かといった教材研究をされており、佐々木先生は、理科と他の教科の連携を進められていた。

私は佐々木先生の話を聞いて、「国語を学んでいることを伝える」と「理科に最も近い教科は算数ではなく、国語ではないか」と感じていた」と話された。理科と国語には、論理的思考という共通性があり、私はその共通性、理科教育において生かせるのではないかと感じた。

中村さんの著書はこちら



「心理学・教育学研究のための効果量入門」：Rを用いた実践的理解(北大路書房、2025年)



編著「生成AIで進化する理科教育：導入から実践までの完全ガイド」(東洋館出版社、2024年)



共編著「理科重要用語事典」(明治図書、2025年)

試行錯誤の先に見えてくる風景 — 本学文学部・高橋大助教授の「言葉」

大学院での研究テーマや、学び

修士・博士課程では、一貫して子どもたちの仮説設定の場面に着目し、その思考過程と指導法を研究した。どのように指導すれば、子どもたちが効果的に仮説を立てられるようになるかを検討するため、世界中の理科教育に関する文献や論文を調査した。その過程で、実に様々な研究があり、どこに理科教育の内容や教え方が異なることに気付いた。

一般的に修士課程は、その分野の知識を一通り身に付けることを一つの目標とする。一方、博士課程はその分野の新しい知見や知識を生み出すことが目標とされる。大学院では日々文献に向き合い、理科教育について仲間と議論した。私にとって、それは実に充実した時間だったと思う。

私が学問について考える際、国学院大学の高橋大助教授の言葉を思い出す。「何がをつかもうとして精いっぱい手を伸ばす。それでも届かず、ジャンプまでして、捉えたと確かに実感した途端、ひっくり返って、気が付けば、手の中には何も無い。しかし、その時、見慣れていたはずの風景が生きてきたと、君に語り掛ける」と。

当時は、この言葉の意図を十分に理解できなかった。やがて大学院へ進学し、学問に向き合い、困難や奥深い研究の道を進む中で、気付けば大学教授という立場にある。複数の賞をいただいても、明確に「つかんだ」という感覚はない。しかし、積み重ねていくうちに、いつの間にか風景の見え方が変わってくる。学問はまさにそのような過程の中に存在するような気がしている。

教員になった2年間

東京都出身の私は、いつか東京に恩返しをしたいと考えていた。中学校の理科教員免許も有していたことから、東京都の小学校全科(理科コース)の枠に応募し、採用された。子どもたちは理科の実験に実に自然な反応で、好奇心を持って取り組んでいる。現場での指導を通して、子どもたちとともに問題解決を実践できる機会となった。

5年生のメダカの飼育の単元では、学校内のビオトープで子どもたちとともにメダカを捕獲するところから始め、観察や記録などに取り組んだ。各クラスでそれぞれ授業内容を工夫することができ、子どもたちとともに私も、理科教育の魅力改めて感じることができた。

こうして次第に理科に関心を持つ子どもたちが育ち、今や大学生となり、「ロボットを開発している」「機械工学の分野に進んだ」などの便りをもらうようになった。

また、ある教え子は「先生の授業で見た顕微鏡のミシンの姿が印象に残っている。そのせいか私はまだにミシンの姿が好きだ」と話してくれた。どのような形であれ、子どもたちの人生のどこかに理科教育がなっていたらうれしく思う。

やる気は、簡単に育てられるものではない。だからこそ考える「涵養」とは

教員の養成において、大切にしていること

まずは、教員として高い指導力を習得し、現場に出てほしい。現在の教員養成は、学習指導要領に示された内容をどのように実現するか、また、どのように内容を暗記させるかに重点が置かれがちだと感じる。私は、学生には「良い教育とは何か」「望ましい学校の指導とは何か」を自ら考え続ける人であってほしいと願い、研究室では卒業論文のテーマを学生自身に設定させ、学生がやりたいことを実現できるように指導と支援を惜しまない。

私は、時折「涵養」という言葉を用いる。この言葉は、自然にしみ込むように養成するという意味で、主体性ややる気などに関して用いることが多い。なぜなら、やる気は、育てようと思っても簡単に育てられるものではないからだ。もちろん最初は、教員から与えられた課題で学び始めたかもしれない。しかし、取り組む過程で、「こういうところがおもしろい」「授業以外でも

やってみたい」といった意欲が生まれ、子どもの姿が変化することがある。こうしていつの間にか、学びに夢中になっていくことが「涵養」ではないか。

国学院大学から教員を目指す学生に、アドバイス

働き方改革の推進により、教員の働く環境は今後、整っていくことが期待されるだろう。教員は子どもの成長に寄り添える、とても魅力のある仕事だ。国学院大学を卒業して教員になった人々は、私の同期も含め、常に何かを追及し続けているように思う。また、教育系の学部を出たからといって、職業が教員に限定されるわけではなく、現に私も、研究者としての道を歩んでいる。自身の経験を糧に、それが社会で活躍してほしい。一生をかけて追究する価値のあるものを見つけた人にとって、国学院大学は確かな環境であるといえるだろう。



第39回 国学院大学松尾三郎杯争奪 全国選抜高等学校柔道大会を開催



国学院大学柔道部が主催する「第39回国学院大学松尾三郎杯争奪全国選抜高等学校柔道大会」が、昨年12月25日にたまプラーザキャンパスで開催された。写真は、松尾三郎・学校法人国学院大学元理事長の柔道振興に対する多大な貢献をたたえることを目的に開催されている。柔道に励む高校生にとっては、1、2年生の選手が出場する「新人戦」としても位置づけられており、各校の柔道部を担う若い選手たちにとって重要な大会となっている。

今回は国学院大学と同柔道部OB会の後援を受けて実施され、全国から選抜された16校が出場。1校6人の団体戦で競い合い、決勝では国士館高等学校（東京都世田谷区）が東海大学付属相模高等学校（相模原市）との接戦を制して優勝を果たした。

法学部 合格者と語る会を開催



法学部が主催する令和7年度合格者と語る会が昨年12月10日、渋谷キャンパスで開催された。この会は、難関試験の合格体験談を通じて在学生の学習意欲の向上を図ることを目的として開催されており、今回は公務員試験や法科大学院、司法試験に合格した4年生や院友（卒業生）ら6人が登壇した。写真は、はじめに、法科大学院の合格者2人が講演を行い、勉強法や試験の特徴を詳細に解説。参加した学生からは志望理由書の書き方など具体的な質問が多く寄せられた。その後、公務員試験合格者、司法試験合格者がそれぞれの経験を語り、学生たちは熱心に聴講した。

講演後には、会場を有栖川宮記念ホールに移し、合格者と参加学生による懇親会が和やかな雰囲気の中で行われた。

インフォダイジェスト

- …在学生
 - …保証人
 - …卒業生
 - …一般
 - …受験生
- 内容 講師 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

期間内試験から3月までの事務室開室および証明書発行機稼働日程

期間内試験から3月までの事務室開室と証明書自動発行機の稼働日時は、渋谷・たまプラーザキャンパスともに本学HP（二次元コード）を参照してください。



大学院学位記授与式

大学院の令和7年度第74回学位記授与式を以下の通り執り行います。詳細は本学HP（二次元コード）からご確認ください。



日・時 3月21日(土)11時～

場 渋谷キャンパス 常磐松ホール

問 大学院事務課 (☎03・5466・0142)

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPY II から行ってください

学内合同企業説明会 (WEB・対面)

優良企業と出会い、応募につなげよう！
本学学生を採用する意向が高い企業を招き、採用担当者から直接話を聞くことができる合同企業説明会です。一日で多くの企業と出会うことができます。この機会に業界・企業・職種研究を進めるとともに、自分に合った企業を探しましょう。

日 WEB=1月30日(金)

対面=2月9日(月)、10日(火)

時 終日

※日程・実施形態により異なります

場 対面=渋谷キャンパス 120周年記念1号館

対学部2・3年生、博前1年次

模擬面接指導会 (対面)

模擬面接で選考に向けて最終チェックをしよう！
面接力の強化と最終チェックを目的に行います。採用選考の面接では、フィードバックがないため、どこが良くどこが悪かったのか分からず、同じ過ちを繰り返してしまう危険性があります。採用試験解禁前に自分の面接内容について、企業の採用担当者から実践的なアドバイスをもらえる貴重な機会ですので、本番対策として積極的に参加してください。

日 2月18日(水)

時 13時30分～17時15分

場 渋谷キャンパス3号館

対学部3年生、博前1年次



人生を「メロドラマ」



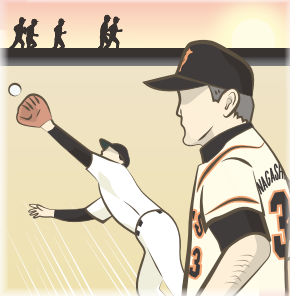
名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。
人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

「若いプレイヤーが昔のように心から感動したり、感動しきれない。それは、やはり時代でしょう。ただ感動を知らない人生というのは、何か生きていく味わいみがないものがないわけですね。これは、昨年亡くなった、「ミスタープロ野球」と呼ばれ、愛された、長嶋茂雄氏の言葉です。「感動」とは一般に、「生活の中で心を動かされた、何か心に触れた感じがしたり、あるいは強い印象を受けること」と定義できます。

しかし、長嶋茂雄氏も指摘しているように、今日、若者の生活の中で感動体験が失われています。「人間教育は、人間（じんかん）教育」。これは、私が教育現場に発したキヤッチフレーズの一つです。たしかに、感動体験が介在する人間関係が希薄化する中で、TVゲームやチャットが入ってきています。子どもの世界でも、遊びの「時間・仲間・空間」の「間」抜け（まぬけ）状態です。では、どう対処すべきでしょうか。

そのヒントを与えてくれるのが、やはり長嶋茂雄氏が提唱した「メロドラマ」（1995年）ではないでしょうか。この言葉自体は、チームに奮起を促すための和製英語だったのでありますが、これを個人にも当てはめることができます。社会へと船出する若者には、自分で自分の人生を切り拓いていく「メロドラマ」を演じてほしいと切望します。そのために必要な能力は「自己価値力」です。「自己価値力」とは、自分で自分自身を価値ある大切な存在であるという、「尊厳感」へと高めるように自己評価する「値打ちづくり」のできる社会的スキルです。例えば、①マイナス評価のナメクジも、見方を変えて可愛い殻をつけてカタツムリへとプラス評価に転換する「カタツムリ評価」、②その子なりの「よさ」を引き出す「励まし評価」、③新たなチャレンジにエールを送る「始まり評価」、④「初めてできたこと」に拍手する「初めて評価」、⑤結果より



近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちと一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。感想や新富名誉教授への質問、講演依頼などございましたら広報課までお寄せください。

箱根駅伝往路選手コメント

「総合優勝の目標と、伝統を次代へ」



青木選手



上原主将



野中選手



辻原選手



高石選手

1区 青木瑠都(健体4) | 区間1位 | 1時間0分28秒

今大会は総合優勝を目標に掲げ、1年間まい進してきました。個人で区間新記録を樹立し区間賞を獲得したものの、チームの結果には悔しさが残ります。最後の箱根路となりましたが、副将としてチームをけん引した経験は、実業団へ進む私にとって大きな糧となります。この悔しさを胸に、次なる舞台でも精進します。

2区 上原琉翔(健体4) | 区間12位 | 1時間7分8秒

主将としてチームに勝利をもたらす走りを目指しましたが、達成できず悔しさが残ります。総合優勝には届かなかったものの、一丸となって戦い抜

くなかでチームの成長を強く実感した大会となりました。この悔しさと手応えを糧に、国学院の伝統を次代へとつないでいきたいと思っています。

3区 野中恒亨(健体3) | 区間3位 | 1時間1分22秒

総合優勝を目指し区間賞を目標に掲げましたが、個人・チーム共に悔しさの残る結果となりました。箱根は人生の全てを懸けて挑める特別な舞台です。ここに注ぎ込んだ熱量を、これからの新たなステージでも変わらず発揮し、次の目標に向かって全力でまい進していきたいと思っています。

4区 辻原 輝(史3) | 区間4位 | 1時間0分59秒

4区で区間新記録を目指し出走しましたが、目標

には届かず悔しさが残ります。しかし、挑戦の過程で調整法や記録樹立への課題が明確になりました。この経験を糧に、最高学年として迎える来季、ラストイヤーを悔いなく終えられるよう、また1年間全力で取り組んでいきます。

5区 高石樹(健体1) | 区間4位 | 1時間10分5秒

設定目標を大幅に上回る好タイムで走り抜くことができました。自身の成長を実感できる、大きな収穫のあった大会となりました。この経験を自信に変え、慢心することなくさらなる高みを目指し、今後日々の練習と競技に真摯に取り組みでいきます。

写真・月刊陸上競技

甘えず妥協せず、 全力を尽くしてつかんだ 公認会計士試験合格 宮嶋優介さん(経4)

国内最難関の資格のひとつである公認会計士試験に、大学3年生で見事合格を果たした宮嶋優介さん(経4)。公認会計士を志した経緯、努力を重ねた日々の様子、将来への思いなどを聞いた。

宮嶋さんが公認会計士を目指そうと思ったきっかけは、高校3年生の1月に偶然見かけた公認会計士のVlog(ビデオブログ)だった。自由に働きながらも自分を律し、向上心をもって挑戦し続ける姿に自身の将来像が重なったという。大学と並行して予備校で学ぶ計画を立て、国学院大学に入学。昼は大学、夜は予備校という生活が始まった。

公認会計士試験は1次試験と2次試験があり、宮嶋さんは大学2年生での1次試験合格を目標に据えた。2年生に進級する前の春休みからは、毎日8時間以上の自習を続けた。「2年生の前期は会計士の勉強に集中しすぎて、予備校も大学も、どちらも思い通りの結果が出ませんでした。なんとかしようと、妥協せず本気で取り組んだところ、大学も予備校もうまくいったんです。自分は0か100かの人間、全力を出し切ることが成果につながると学びました」と振り返る。12月の1次試験を目指し、連日ほぼ14時間もの勉強を続けた結果、見事合格を果たした。

過酷な日々を支えたのは、予備校仲間との存在。「合格を目標に一丸となってがんばり、部活動のよう楽しかった。一貫した志というよりも、状況に応じ

て動機を見つけられたことがよかったと感じています。そして1次試験の合格発表時には、自分のなかでガラリと何かが変わるほどの自信が得られ、同時に大学の成績も向上し、やればできると、無敵になった気持ちでした」と語る。

最難関とされる国家資格の中でも、公認会計士は、忍耐力や継続力が問われ、努力が結果に直結すると感じていた宮嶋さん。2次試験に向け、毎日最低でも8時間の学習を継続し、3年生で見事合格。その瞬間は、喜びよりも「勉強漬けの日々から解放される」という安心感の方が勝っていたという。後期からは大学の授業やゼミ活動に全力で取り組みつつ、友人たちとの時間も大切にしている。

一方、就職先となる監査法人でのインターンにも挑戦し、専門家への一歩を踏み出している。就職後も公認会計士登録に向けた講習や修了考査、さらに

は会計基準や法律の改正への対応など、学びはずっと続く。

宮嶋さんは、公認会計士について「社会的には、投資家にとって信頼できる証券市場を支え、経済の発展に貢献することが使命」と述べ、今後については「監査の全体像が見えるようになるのには数年かかるため、現在は必要なピースを集めている段階。将来どのような職務を担うとしても、会計士には専門知識のみならず人間力が求められます。監査の仕事自体もチームプレーですし、まわりの人たちとの関わりを大事にしたいと思います」と話す。

高校時代はサッカー部のフォワードとしてチームをけん引した宮嶋さん。仲間を大切に、目標へ向かう姿勢はそのままに。経験を力に変えて、これからも真摯に努力を重ねていく宮嶋さんの今後の活躍を期待する。



K:DNA — 創立144年を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

国学院の想いをつなぐ

箱根駅伝過去最高 総合2位

第102回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が1月2、3日に東京・大手町から神奈川・芦ノ湖畔をつなぐ往復全10区間・217.1kmで開催され、国学院大学陸上競技部は、過去最高順位となる総合2位に輝いた。

1区の青木瑠都選手(健体4)は序盤、集団を離れる場面もあったものの、冷静な走りで後半は先頭集団をけん引する展開に。終盤には集団を抜けてトップに躍り出るとそのまま独走し、従来の記録を12秒更新する区間新記録の快走で鶴見中継所に飛び込み、同大会で本学初となるトップでの襷リレーとなった。エース区間の2区を担った上原琉翔主将(健体4)は順位を落としたものの懸命に前を追いかけて、6位で3区の野中恒亨選手(健体3)に襷をつないだ。野中選手は3km付近で山梨学院大学をかわして順位を一つあげ、区間3位の好走を見せた。4区の辻原輝選手(史3)は着実に前との差を縮め、総合順位を二つ押し上げて3位に浮上。5区は初出場で箱根の山に挑んだ高石樹選手(健体1)が青山学院大学や城西大学など各校のエース選手にかわされたものの、終盤には城西大学を抜き返す力強い走りを見せ、区間4位。チームでは往路4位で芦ノ湖畔にゴールした。



第102回 箱根駅伝総合成績

順位	大学名	総合記録
1	青山学院大学	10時間37分34秒
2	国学院大学	10時間40分7秒
3	順天堂大学	10時間43分55秒
4	早稲田大学	10時間44分29秒
5	中央大学	10時間44分31秒
6	駒沢大学	10時間44分50秒
7	城西大学	10時間46分17秒
8	創価大学	10時間51分40秒
9	帝京大学	10時間53分15秒
10	日本大学	10時間53分56秒

以上、シード獲得 (以下略)

復路では、6区の後村光星選手(健体3)が、序盤で中央大学をかわし3位に浮上。山下りの難コースを果敢に攻めたものの、逆に中央大学に抜き返される展開となった。続く7区の高山豪起選手(法4)は、安定感のある走りで中央大学、早稲田大学をとらえ一気に2位へ浮上。小田原中継所地点で3分23秒あった首位の青山学院大学との差を1分28秒まで詰め、区間新記録に迫る歴代2位の走りで区間賞を獲得した。総合2位で襷を受けた8区の飯國新太選手

(法2)は、後続の中央大学との差をひろげ、先頭と1分44秒差で9区の野田顕臣選手(健体1)へ襷を託した。野田選手は初出場の1年生ながらも力強い走りで、総合2位をキープ。最終10区の尾熊迅斗選手(健体2)は、区間4位の好走で前を追いかけた。尾熊選手は9人がつないだ襷を胸に走り切り、大手町のゴールへ飛び込んだ。国学院大学は大会新記録となる10時間40分7秒の記録で、歴代最高順位となる総合2位となった。

復路選手コメント

「一歩及ばなかった悔しさ。次こそは勝利のゴールへ」



後村選手



高山選手



飯國選手



野田選手



尾熊選手

6区 後村光星(健体3) | 区間8位 | 58分44秒

今季は度重なる故障に苦しみましたが、その悔しさを全てぶつける覚悟で臨みました。序盤から積極的に攻めた一方で、後半の失速に実力不足を痛感しています。2位という結果を真摯に受け止め、この悔しさを決して忘れることなく、次こそは頂点に立てるよう、一から自分を鍛え直していきます。

7区 高山豪起(法4) | 区間1位 | 1時間0分54秒

過去の悔しさを背負い、全力を出し切る覚悟で走りました。厳しい展開でも襷の重さを力に変え、区間賞という結果で応えられたことは大きな自信です。箱根は結果以上に覚悟と継続を問う舞台だと実

感じました。この経験を糧に、今後の陸上人生でもさらなる高みを目指し、成長し続けていきます。

8区 飯國新太(法2) | 区間2位 | 1時間4分1秒

区間記録更新と優勝への貢献を目指しましたが、一歩及ばず力不足を痛感しました。一方で、重圧下で粘り抜き、殻を破れたことは大きな収穫です。この悔しさを糧に、来季は必ず結果で証明します。次こそはチームに勝利を呼び寄せられるよう、日々の努力を積み重ねていきます。

9区 野田顕臣(健体1) | 区間3位 | 1時間7分53秒

総合優勝と区間記録更新を目標に臨みましたが、悔しい結果となりました。しかし、最後まで勝利を

諦めない先輩方の背中に、国学院で走れる喜びを改めて実感し、「もっと強くなりたい」と決意を新たにしました。この経験を糧に己の可能性を信じ、さらなる成長を遂げて次こそは勝利に貢献します。

10区 尾熊迅斗(健体2) | 区間4位 | 1時間8分33秒

任された区間での逆転を狙いましたが、力及ばず悔しさが残ります。箱根は日々の積み重ねが如実に表れる舞台だと痛感しました。この経験を糧に自身の課題と向き合い、来季こそはチームの勝利を決定づける走りができるよう、向上心をもって着実に精進を重ねます。

往路選手コメントはⅡ面

写真・月刊陸上競技